

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 はっぴーone		
○保護者評価実施期間	令和7年12月22日		～ 令和8年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58世帯	(回答者数) 47世帯
○従業者評価実施期間	令和7年12月22日		～ 令和8年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	就学に繋げる集中力・姿勢保持・指先の巧緻性を育むため、感覚統合に基づいた脳への刺激を活動に取り入れ、成長の土台作りに力を入れている。(全身運動・指先遊び・感触遊び・クッキング活動や戸外活動など)	毎日のチャレンジ課題においては専門職の見解を取り入れ個々の発達に合わせた課題を実施している。行動分析学に基づき、子どもたちの自主性を育てている。	職員間での毎月の研修会や、外部研修に参加しながら、支援に関わる職員皆でスキルの上を図っている。
2	保育士、言語聴覚士、作業療法士、看護師を含む専門職が在籍しているため、様々な視点からニーズに合わせた療育を行っている。	毎日のカンファレンスにて情報共有を行い、定期的な個別支援対応の評価・考察を行い支援や計画作成の見直しをしている。また、情報共有のもと、支援の一貫性を図っている。	様々な職種の知識や経験を活かせるように、今後も継続して、カンファレンスでの情報共有を行い、直接支援に繋げていく。また、個々に応じた支援の一貫性が図れるように検討していく。
3	多機能型事業所にて施設の安全点検や避難訓練など共有することで異常の早期発見に繋がっている。今後大規模災害時の避難拠点として地域住民の避難場所にもなるように計画中である。	委員会活動を中心に自然災害時の備蓄を備えたり、避難方法の確認、日頃使用しない非常口や排煙窓の点検、放課後等デイサービスとの合同訓練を実施することで火災時の動きや流れの確認、緊急時の協力体制の強化を図る。	災害時マニュアルに基づいた様々な避難訓練を実施。訓練後は課題を見つけて改善策を上げていく。また、職員の移動などがあつた際は、防災チェックテストなどを行い、職員が施設完備についての周知が図れるよう取り入れていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会が少ない。	地域の公園や施設を利用することもあるが、平日の午前中に利用することが主であり、交流の機会が少ない。感染症の状況で、積極的な交流を図ることが困難である。	近隣の施設と交流が図れるボランティア活動などに積極的に参加する。活動時に地域の方々への積極的なあいさつ運動、ゴミ拾い活動など、子どもたちと一緒に取り組めることを習慣化を図る。
2	保護者様と直接、お話をする機会がすくなく連絡帳アプリでのやり取りがメインとなっている。	就労の関係上、園送迎が主となっている。	定期的な保護者面談を実施することで、保護者様との信頼関係を構築し、子どもたちの成長を共に喜び合える土台を築く。保育所等訪問の着いていないご家庭はさらに、意識して定期的な面談調整を図る。
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援事業所 はっぴーone

公表日 R8年 2月 24日

利用児童数 58名

回収数 46名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	47	0	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	43	0	0	4		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	47	0	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	47	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	47	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	47	0	0	0		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	47	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	47	0	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	46	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	47	0	0	0		
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	34	4	1	8		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	46	1	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	47	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	43	1	1	2	ペアトレを学ぶ機会があるといい。	積極的なご意見ありがとうございます。 保護者会などを活用して療育にかかわる様々な研修を企画してまいります。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	46	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	44	3	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	46	1	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	41	4	1	1		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	43	2	0	2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	2	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	44	2	0	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	44	2	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	36	3	0	8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	38	3	0	6		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	43	2	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	46	0	0	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	44	1	0	2		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	40	6	0	1	通所時に先生の名前を言っていってきま〜すと笑顔で向かっています。家では行きたくないと言うが、通所してみると楽しんでいる。	嬉しいお話ありがとうございます。今後も楽しんで通所していただけるよう尽力いたします。貴重なお話ありがとうございます。安心して通所していただけるよう信頼関係を築いてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	46	0	0	1	子どもは、はっぴーを気に入っており、イベントがあるごとに大喜びです。次男も行きたいと言っています。他の方へ勧めたいほどです。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所 はっぴーone		公表日		R8年 2月 24日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		人数に応じた部屋の環境設定を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		十分な人員配置を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		医療的ケア児に対しては、毎回クッションマットを貼り合わせてガムテープ固定し転倒時の怪我予防をしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		療育後に事業所や、活動で使う道具など清掃・消毒を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		状況に応じて（クールダウン・着替えなど）臨機応変に個別で部屋や戸外を使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		日々のカンファレンスを行い、振り返りや、目標設定を見直している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		日々のカンファレンスで意見交換を行い、業務改善に繋げている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		日々のカンファレンスや定期的な職員の面談を通じて、業務改善に繋げている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9		事業所アンケートを行った結果をカンファレンス共有し意見交換を行い、改善に繋げている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		施設内研修を積極的に取り組み、施設外研修の資料等も共有している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		支援プログラムを公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		保護者様の気になっていること、ご要望を確認し、計画書を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		日々のカンファレンスで意見交換を行い、利用者様の支援内容を検討している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		計画書の共有と計画書を見ながら、日々の記録、評価を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		全ての利用者様ではないが数名行動観察を実施		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		児童発達支援計画書に、利用者様の個々に応じた必要な項目が適切に設定され、具体的に設定されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		毎月の職員会議で各専門職と意見交換を行い立案している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		発達段階や活動の発展の度合いを見ながら調整している。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		個々の状況に応じて個別活動や集団活動を組み合わせる支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		事前の打ち合わせを行うとともに、リーダー表、タイムスケジュール表なども活用して連携を取っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		日々のカンファレンスを行い、振り返りや、気になることなど共有し、次の支援に繋げている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		日々のサービス提供記録やカンファレンスをもとに職員間でディスカッションし改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		定期的なモニタリングのもと、個々の状況に合わせた支援を検討し、必要時は児童発達支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		会議等は児童発達支援管理責任者をはじめ、1人1人のこどものことをよく理解している支援員で対応している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		必要に応じて情報共有を行い連携を図らせていただいている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		個々の状況に併せて、必要とされるサービスを受けられるように、関係機関との情報共有を行い相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		移行支援シートの活用を行ったり、必要時にはオンラインでの情報共有を図る、または、事業所に見学に来てもらう。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		おおすみ児童発達センターとの連携を図り、必要時には助言を頂いている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8		夏祭りや運動会を開催し、地域の学校に通う放課後等デイサービスの子どもたちとの交流の機会はある。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		日頃よりアプリなどで情報共有している。必要に応じては面談やオンラインなどでも情報共有を図っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		取り入れたいトレーニングの一つであるが、難しい状況である。保護者様のお仕事の状況も踏まえ、連絡帳や電話にて情報共有を図っている。		
保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に重要事項説明書などで説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		契約時や保護者様との面談、モニタリングを通してご家族の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		児童発達管支援理責任者より説明が行われている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		保護者様の困り感や悩みに応じて、必要な助言や支援を行うにあたり、面談を調整している。保育所等訪問支援のない家庭は不定期である。	

護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		年2回の保護者会を実施、また夏祭りや運動会を開催し、ご家族そろって交流できる機会を設けている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		迅速に対応できるように、勉強会を行い、ロールプレイを実施し、迅速な対応へ繋げている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月のお便りをアプリにて発信、活動案内や連絡体制もアプリに移行したことにより、スムーズな連携体制が取れるようになった。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		書類保管場所の施錠を徹底し、管理している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		ご家庭に応じて事前の電話対応やメール連絡などを、こまめにとり配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8		近隣の施設等もあるが、感染症の流行により、双方にとって開かれた運営が困難な状況である。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			年間予定表やお便りにて、保護者様へ周知した上で、訓練を実施している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			委員会活動により計画されており、非常発生時に備えた避難訓練や非常食の管理などを行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8			担当者会意義や契約に必ず確認を行っている。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			アレルギーのある利用者様は、医師の指示書に基づく対応を行うか、ご家庭から弁当を持参して頂いている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			安全計画に基づき、安全点検簿で確認を実施。必要に応じて迅速に修理対応を行っている。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			安全計画に基づいた取り組み内容を書くご家庭へ周知し非常時に迅速な連携がとれるように働き掛けていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			ヒヤリハット発生時に、再発防止のために同日に職員で検討し対策を上げて迅速に対応し二次被害予防に努めている。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			虐待防止委員会をはじめ、研修内容の共有や日々の支援の中で振り返りを行い、より良い支援へ繋げている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8			身体拘束を行う可能性がある際は保護者様に安全面を考慮し検討した支援内容を説明し、了承を得ている。	